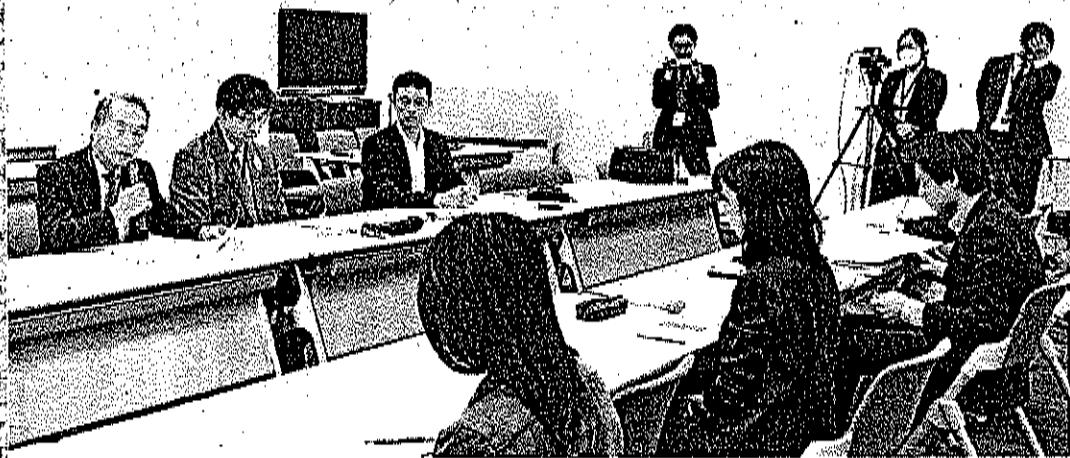


# マイナ不安消えてない 現



厚労省の担当者（手前テーブル）に要請する保団連の住江憲勇会長（左端）、参院議員会館

## 「保険証」存続を要請

全国保険医団体連合会（保団連）は26日、国会内で、マイナンバーカード保険証トラブルや、政府のマイナンバー情報統一検査本部の対応を確認し、従来の健康保険証の存続を厚生労働省に求めました。

保団連の住江憲勇会長は腹頭、医療機関で頻発するマイナ保険証について、「どんなトラブルに出で」「どうなトラブルに戦々恐々だ」と指摘したうえで、「いまだ（マイナ保険証の）運用を停止することすらせず、混乱、困難、情報の漏えい」という状況が国際、医療機関に押し付け続けることは許されないと強調しました。

本並省事務局次長は、政府がマイナンバー情報の総点検と、1億6

## 保団連が厚労省に

報の総点検を行うとしたことだ。「その達成が必要だ」と強調。マイナンバーと被保険者情報のひも付けミスが相次ぐ中、「厚労省から岸田文雄首相に、保険証廃止の延期を強く求めていただきたい」と訴えました。

これに対し、厚労省の担当者は「スケジュールに沿って総点検を行い、保険証廃止に向けた不安を払拭していく」と述べました。また、マイナ保険証をました。

000万件の被保険者情報を

厚労省の担当者は「マイナ保険証を用いることで過去の薬剤情報を閲覧した受診ができるなどリストを活用する一方で、保険診療を受けられる体制を確保する」などを答えました。

竹田智雄副会長は「マイナ保険証を使った患者さんは『こんなに不便なものはない』と話している。国民の不安は払拭されていない。保険証を残してほしい」と強調し

持たない人に発行される予定の資格確認書について、住江会長は「マイナ保険証を持たない人に

は資格確認書、持っている人には『資格情報のお知らせ』が届けられるが、これなら（従来の）健康保険証でいいのではないか。これが行政のやる仕事なのか」と指